

# CNA Report Japan

Newsletter focused on  
Collaborative Conferencing

Conferencing News & Analysis— Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol. 7. No. 6 2005 年 3 月 31 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集:橋本啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp) Copyright 2005 Kay Office All rights reserved.

## ニュース項目

### ■テレビ電話を使ったソリューションを展開するクリエイティブサービス



#### LukSee Jr. 5.0

クリエイティブサービス(東京都豊島区)は、IPテレビ電話「LukSee(ラクシー)」と「LukSee Jr.」を販売しているインターネットテレビ電話のソリューションベンダー。LukSee IPテレビ電話は、韓国の Wooksung Electronics 社(ウクソン電子)と共同開発し同社から OEM 供給を受け、クリエイティブサービスで販売している。また、LukSee Jr.は、同ウクソン電子の TelePhosee の名で知られる「WVP-2100」。

クリエイティブサービスは、従来は、NTT の ISDN テレビ電話「Phoenix mini」を用いて、テレビ会議システムの販売等を行っていたが、ブロードバンドインターネットの普及とともに、IPテレビ電話を取り扱うことになった。導入先としてたとえば、栃木県壬生町では、在宅医療の担当医と高齢者と

の連絡用に同社のテレビ電話が活用されている。(caretaker 2004 創刊号 参照)

(写真左 LukSee IP テレビ電話 タッチパネル式、5.6 インチ画面、録画機能など)

IP テレビ電話では、機種に応じて VOD(ビデオオンディマンド)による映像配信、

外部カメラと組み合わせた遠隔監視、登録箇所に接続するまで自動でコールする機能などを提供している。

また、多地点接続装置専門メーカーの UC-Media 社と協力しインターネットテレビ会議システムの構築を今後手掛ける。(UC-Media:CNAレポート・ジャパン Vol.7 No.4 2005 年 2 月 28 日)

クリエイティブサービスでは、現在テレビ電話を用いた各種コンシューマー向けのサービスを提供している。「一心多助」、「安心多助」、「社長の用心棒」などがある。

まず、「一心多助」サービスは、IPテレビ電話を利用者が自宅に設置し、クリエイティブサービスのラクシーオペレーションセンターのオペレータが各種サービスに対応する。下記サービス以外にも、操作などのテクニカルサポートも提供している。

(1)健康、介護、育児相談等が行えるヘルスケアサービス、(2)弁護士、ファイナンシャルプランナーなど各専門家のコンサルティングサービス、(3)ショッピング代行サービス、(4)航空チケット、ホテル予約などの旅行ガイド予約サービス、(4)ホームクリーニング、出張料理、通訳、鍼・灸・マッサージなどの生活支援サービス、(5)なんでも相談サービス、(6)趣味・スポーツ情報サービス、(7)各種イベント企画サービス、(8)知りたい情報について、インターネット上で検索し結果を TV 電話または FAX でお知らせするインターネット検索サービス、があり、サービスによって有料分もある。

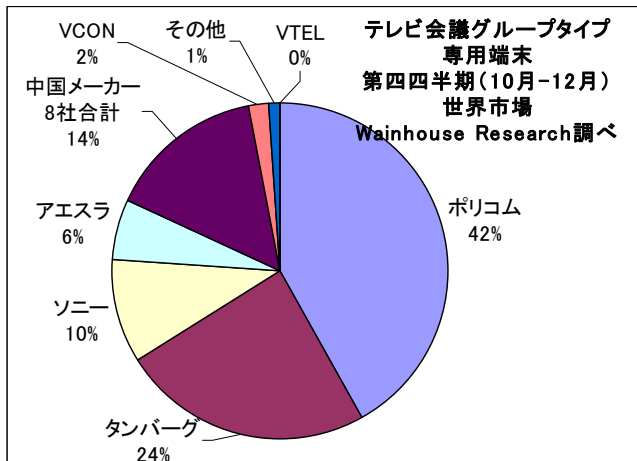
次に、「安心多助」は、ISDN や FOMA テレビ電話を使った高齢者向け安否確認サービス。週 1 日から 6 日で 1 日 1 回から 5 回まで同社のオペレータが独居老人や高齢者世帯の安否情報を確認する。

そして、「社長の用心棒」は、(1)ビジネスにおける各専門家(法律、経営、労務、税務など)の紹介と、(2)オペレータによる秘書的なサービス(書類作成、チケット予約、健康相談、多地点会議設定など)のサービスを、ISDN テレビ電話を使って提供している。

クリエイティブサービスは、創業昭和 63 年。IP テレビ電話の販売、テレビ電話のサービス以外に、インターネットプロバイダー事業、コンピューターソフトウェア制作企画、ホームページ

ジ制作、介護用品及び介護機器の設計、製造、施工及び販売などを事業として行っている。2003年12月に、同社系列のウクソンインターナショナルがテレビ電話ショールームを池袋にオープンしている。

■ 米 Wainhouse Research: 2004年10月—12月 期テレビ会議システム市場状況発表



米会議ツール専門の調査会社 Wainhouse Research 社が、2004年第四四半期のグループタイプ世界テレビ会議システム市場の状況について発表した。

Wainhouse Research Bulletin ニュース(2005年3月23日号)の関連の記事によると、北米市場が若干低調気味だったが、第四四半期のテレビ会議業界の業績は好調で、第三四半期から比較して台数ベースで12.7%、また年ベースでは、30.4%もの市場の成長を見せ堅調な伸びを示している。

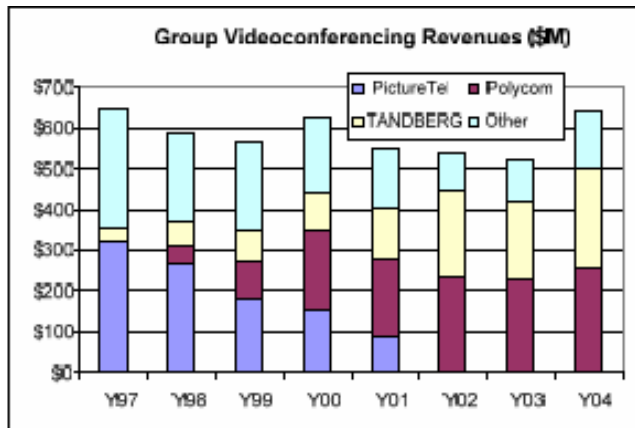
2004年販売台数世界 vs 各国(Wainhouse データより作成)

	Q1	Q2	Q3	Q4	合計
世界	25,808	27,742	30,570	34,465	118,585
中国	4,708	4,518	7,445	8,961	25,632
日本	3,213	1,762	1,915	2,049	8,939
仏	561	809	620	988	2,978
独	487	392	637	715	2,231
英	1,508	1,489	1,362	1,626	5,985

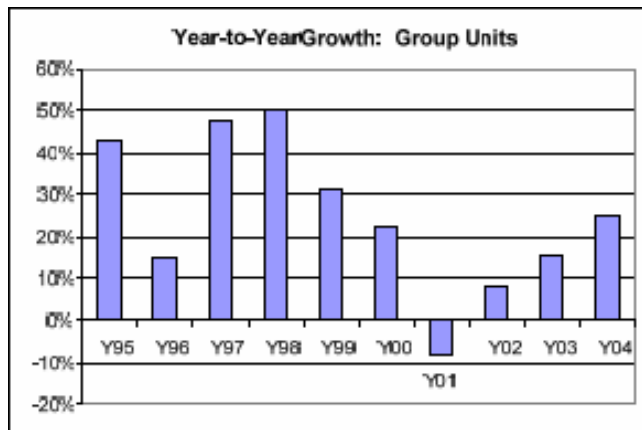
市場状況については、引き続きポリコムとタンバークが市場の過半数を押さえているが、ソニーとアエスラがその後を追う状況は変わっていない。また、中国テレビ会議メーカー8社(WainhouseではTeam Chinaと呼ぶ)は、第三四半

期から1ポイント上げ15%の市場を獲得している。以下 Wainhouse から発表されたデータ。

グループタイプ(ルーム、セットトップ)売上額推移



グループタイプ販売台数伸び推移



<http://www.wainhouse.com>

情報参照: Volume 6 Issue #10 23-Mar-05



<広告> イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語):  
 - 日本地方自治体等導入実績  
 - PCタイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXMメディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズに対応。

H.323 対応 PC 用会議システム vPoint HD H.264 対応 VCON <http://www.vcon.com>

<AD>

## ■米会議サービス事業者インターコール社、マイクロソフトと提携

会議サービスを提供する米インターコール社は、マイクロソフトと提携し、マイクロソフトオフィス Live Meeting をサービスエンジンとした「Conference Place 2005」を発表した。Conference Place 2005 によって、マイクロソフトのワード、エクセル、パワーポイント、Visio などのビジネスソフトから簡単にウェブ会議を行うことができる。

特長的な機能としては、アプリケーション共有機能、参加者の状態を表すムード表示機能、参加者を呼び出す機能、ライブ投票機能、待合室機能(参加者が会議に入る前に待機できる部屋、会議室に参加できるか否かが参加者によって指定できる)、ライブチャット機能などもある。

## ■Skype、WindowsOS 向けの新バージョン 1.2

無償の VoIP ソフトウェアを提供する Skype は、WindowsOS 向けの新バージョン 1.2 をリリースした。バージョンアップにより、コンタクトリストの利便性の向上、そして「Getting Started Wizard」によって、Skype ソフトウェアのダウンロードとそのソフトウェアの操作性の向上を行いより使いやすいユーザーインターフェイスにした。

コンタクトリストについては、以前のバージョンでは、コンタクトリストをローカルの PC に保存していたが、それを Skype 側で一元的に管理することにより、ユーザーはインターネットからリモートで自分のコンタクトリストに、違う PC からでも参照できるようになった。

また、マイクロソフトのアウトルック、アウトルックエクスプレス、MSN Messenger、Opera などからもコンタクトリストのインポートが可能。さらに、ディレクトリー検索機能、個人情報編集などの機能がワンクリックで簡単にアクセスできる。

他には、マルチプルファイル転送、サウンド、ユーザーの好みによるカスタマイズ、音声クオリティの向上などがある。

Skype は、3100 万以上の登録利用ユーザーがあり、日々毎日 16 万の新規ユーザー登録が行われている。今までに 60 億分もの通話が Skype を通して行われているという。

## ■Videoconferencing Insight 翻訳記事: All New Video 社 BBC 向けに 3G テレビ電話を使ったレポーターングサービスを提供

携帯テレビ電話サービスを提供する英 All New Video 社は、英 BBC 放送向けに 3G テレビ電話を使ったレポーターングサービスを提供すると発表。

このサービスは、記者やレポーターが 3G 携帯テレビ電話を所持し、現場からテレビ放送センターにテレビ電話で現場のレポートを行うというもの。通常の携帯電話と同じ気軽さ所持し通話できることから、タイムリー且つリアルタイムに現場の緊急なニュースなどの状況をテレビ中継ネットにのせることが可能になった。

この技術とサービスを提供する All New Video 社は、同社が提供するマネージドサービスの一部として BBC に提供する。このサービスは、3G 携帯テレビ電話だけでなく、ISDN、IP ネットワークでのテレビ電話などとの双方向のテレビ電話通話を実現する。

All New Video 社は、通信事業者が運営する信頼性の高いものと同様なネットワーク品質を提供することによりこのサービスを実現する。

この技術のベースは、イスラエルのラドビジョン社の 3G ゲートウエイ技術。ラドビジョン社の技術は、BBC が求める厳しい基準を満たすものであり、スケーラブル性と信頼性の高い機能を提供する。

All New Video 社のオペレーションディレクター David Hogben 氏は、以下のように述べる。「BBC と協力し、一般視聴者に付加価値の高い情報提供ができることについて非常に光榮に思う。映像通信は、モバイルテレフォニー時代には、主要なアプリケーションと見なされている。そのため、このテレビ電話機能を提供することにより、将来ライブ放送において、付加価値の高いコンテンツをより柔軟にかつ低コストで提供できるようになると当社では期待している。」

## ショートニュース項目

◆ソニーは、ビデオ会議、監視用カメラやレコーダーなどの業務用製品において IP ネットワーク対応を強化した「IPELA (イペラ)」を発表。IPELA は、ソニーが放送機器開発で培った高画質・高音質・高信頼性と、民生機器の小型・軽量・使い

やすさなどの技術を結集し、IPネットワーク対応を強化した業務用製品群の総称。核となる製品は、(1)ビデオ会議システム、PCS-G70とPCS-TL50はIPELAシリーズ名がついている。(2)遠隔カメラとレコーダー、(3)広域モニタリングシステム。ビジネス上の情報収集、素早い意志決定、高画質の映像を活用した遠隔サービスなど企業活動の効率化と新サービス創出を支援する。

◆Skype社、SkypeOutサービスを100万ユーザー以上が利用と発表。SkypeOutサービスは、SkypeのVoIPソフトウェアから通常の電話などにコールするサービス。世界各国に市内通話レベルでのコール料金で通話できる。

◆IPテレビ会議サービス専門の米GlowPoint社が、1000万USD(約10億円)の資本増強を行った。機関投資家などが666万株以上の普通株を引き受ける。また、266万株以上の普通株転換社債を発行。資本増強を行い事業の運転資金に充当する。

◆TANDBERGアメリカ社は、GlowPoint社のIPテレビ会議サービスの利用を北米19拠点に拡大する。2004年4月の両社間の戦略的アライアンスの一環として実施。当初はGlowPoint社のデモ設備を設置したTANDBERGアメリカ社の7拠点だったが、今回19拠点に拡大することにより、事業拠点などでISDN拠点をIP化することになる。

◆IPテレビ会議サービス専門の米GlowPoint社が訴訟を起こしていた、Gore Technologies社のV-Span社買収の件で、GlowPoint社とGore Technologies社が和解した。GlowPoint社が訴訟を取り下げるかわりに、Gore Technologies社は、GlowPoint社へ310万USD(約3億1000万円)を支払うことになった。Gore Technologies社がGlowpoint社との合意事項(会議サービス事業者を当面買収しない)を破った形だった。(CNAレポート・ジャパン Vol.6 No.16 2004年10月15日号)

◆会議ツールなどの啓蒙と普及を目指す業界任意団体である米IMCCAは、IMCCAの会長に現ポリコム社ネットワークシステムズ事業部担当上級副社長兼ジェネラルマネージャーのPhil Keenan氏が就任することになった。Phil Keenan氏は、元MCU専門メーカーのAccord社からポリコムが同社を買収してからポリコムに移った。IMCCAの前会長は、S. Ann Earon氏。Telemanagement Resources International Inc. (TRI1982年設立)社長。会議システム関係には、1974

年のベルシステム社での経験の頃からこの業界をワッチしてきている。

◆米大手ウェブ会議サービスを提供するWebEx社、ウェブ会議プラットフォーム開発ツールキット「MediaTone developer program」を提供開始。Web会議サービスのプラットフォームインフラとしてのMediaToneNetworkのAPIを開示。既存の企業内アプリケーションなどとの連携を容易にする。開発プログラムは、3種類あり、「WebEx Developer」、「Gold Developer Program」、「Platinum Developer Program」がある。

◆VCON社は、「HD Development Kit」のバージョン6.5をリリースした。新バージョンでは、音声コーデックでは、G.722.1とG.729、20Khz AAC-LC、デュアルビデオ規格H.239、映像コーデックでは、H.263+/++、H.264(4Mbpsまで)、暗号化関係では、H.235、その他では、インターレスCIFなどをそれぞれサポートしている。日本では日本システムウェア(東京都渋谷区)が日本総代理店。

◆NTT-MEのグローバルソリューション本部が行う全事業を、4月1日付でNTTアドバンステクノロジー(NTT-AT、東京都新宿区)への営業譲渡することになった。同本部では、この業界関係では、テレビ会議並びにウェブ会議、電話会議などのシステムも取り扱ってきた。NTT-ATの新組織となっても、今までの事業所場所等については移行後も変更はない。以前からの顧客はそのまま継続してサービス等を利用できる。今回の営業譲渡については、NTTグループとして本事業における戦略的なプロダクト開発の推進及び営業体制の充実を図るとしている。

◆VCON社、i3 Micro Technology社、Orca Interactive社の三社は、コンシューマー向けのIPビデオテレフォニーソリューションで提携した。三社の技術的な強みを統合し、IPテレフォニー並びにIP-TVサービスなどを提供し、より高付加価値なサービスの追加を検討するサービスプロバイダー向けに提供する。i3 Micro社のセットトップボックス、Orca社のIPTV技術、VCONのテレビ会議技術を融合する。

◆VCON社は、スマトラ沖大地震インド洋大津波の被災者に対して人道的な支援を行い、スリランカのVCONのリセラーを経由して、医薬品、食糧、衣服などの供給を通して被災地活動を行った。



## セミナーレポート

### 「フレッツフォン」特別限定セミナー



セミナー会場

3月23日午後都内で、主催ウイアライアンス、協賛NTT 東日本で、「フレッツフォン」特別限定セミナーが開催された。

特別限定セミナーは、システムインテグレーター向けの内容で、ウイアライアンス 取締役 本郷 安史氏、NTT 東日本 コンシューマー事業推進本部ブロードバンドサービス部映像コミュニケーションサービス開発部門長 大村佳久氏、NTT 東日本同部門 担当部長 遠藤 文敏氏、ウイアライアンス エグゼクティブ プロデューサー 夏目光彦氏が講演し、VP1000 の紹介から今後の開発予定、VP1000 に関する技術開示内容、技術開示契約関係、導入事例の紹介、会場でのデモなど2時間の内容。

今回のセミナーの意図としては、NTT 東日本としては、VP1000 フレッツフォンをプラットフォームとした SI 向けのツールとして行きたい考えがある。

#### 講演1:ウイアライアンス 取締役 本郷 安史氏

セミナーは、まず、VP1000 の開発にデザイン分野で参画したウイアライアンス 取締役 本郷 安史氏よりあいさつがあった。

ウイアライアンス(東京都千代田区)は、ワックグループの広告代理・プロデュース会社で、メディア広告、イベント企画制作、展示映像企画制作、Web コンテンツ企画制作等を手がける会社。同社がフレッツフォンのデザイン分野を担当し、映像コミュニケーションが新たなライフスタイルを作るという観点からさまざまな課題について NTT と議論を

積み重ねてきた。

フレッツフォンは、シンプルな使い方以外にも、遠隔モニター、遠隔会議、複数地点を結んださまざまなアプリケーションなどの可能性があると期待する。今後フレッツフォンが社会に早く普及していくことを希望するとともに、本格的なテレビ電話時代がくるのではないかと考える。

#### 講演2:NTT 東日本

##### コンシューマー事業推進本部ブロードバンドサービス部

##### 映像コミュニケーションサービス開発部門長 大村佳久氏

次に「フレッツフォンの狙い」と題して、NTT 東日本の大村氏の講演。大村氏は、まず、フレッツフォンは、開発してまだ2年しか経っておらず、まだまだ“開発途上”と言う。今後コスト的にも機能的にも VP1000 をブラッシュアップさせ、さらなるラインナップ充実を図る計画。

VP1000 が出てきた背景としては、NTT 自身の光回線に対する考えがある。NTT は、2010 年までに光回線を 3000 万世帯まで広げる計画。ただし、100Mbps のブロードバンド“土管”に何を流すのかという課題があり、音声だけでは足りないのではないかと認識があった。そこで映像系のコンテンツが有望なアプリケーションになるのではないかとNTTとしては考えた。

NTT は過去、静止画テレビ電話から始まり、ISDN テレビ電話ピクセンド R など映像コミュニケーション機器の開発を行ってきたが、大村氏によると事業としては立ち上がらなかったという。原因としては、従量課金の問題、INS64 などのアクセス回線の問題、端末は同じものを2台購入しなければならないなどの問題があったと指摘する。

フレッツフォンは、価格としては6万円程度でコンシューマーとしては高いという認識があるが、ビジネス系では、テレビ会議システム自体が10万、20万以上の世界であるため、そういった環境では、フレッツフォンは、割安感があるのではないかと見る。

また、フレッツフォンをプラットフォームとしてシステムインテグレーターがさまざまな機能を付加し、それによってさまざまなアプリケーションを提供し、映像コミュニケーションを普及させたい NTT としての強い意志がある。逆にシステムインテグレーターからさまざまな機能追加などの要望もいただきたいとも考える。

今後の展開としては、フレッツフオンのコミュニケーションやインターネットの機能以外にも、カスタマイズ、既存のテレビ会議との対応、多地点接続、FOMA や PSTN との接続、デジタル家電との連携なども対応していく。

デジタル家電では、たとえば、“テレビ”メーカーなどと話している。テレビそのものだけでなく、モニターにリアルな映像コミュニケーションを出すかということを考えている。そのためのプロトコルをテレビ自体に内蔵させる、あるいはセットトップボックスでその機能を提供するなど現在検討中。また、DVD とテレビ電話の連携では、たとえば、DVD の映像を見ている時にテレビ電話がかかってくると、電話コールの着信、テレビの音量を自動で下げる、続きをフレッツフォンで見るなど。そのためには、連携のためのプロトコル開発などが必要となる。基本的には、「フレッツフォン INSIDE」ではないが、そういったことも考えている。

**講演3:NTT 東日本  
コンシューマー事業推進本部ブロードバンドサービス部  
映像コミュニケーションサービス開発部  
担当部長 遠藤文敏氏**

現在 NTT 東日本としては、フレッツフォンを使ったソリューション対応に向けた取り組みを行っている。

現状フレッツフォン VP1000 で出来るものとしては、VP1000 ブラウジング、ストリーミング、2Mの映像コンテンツが再生、フレッツ IPv6 サービス、050 の VoIP 電話サービス、Lモード、NTTビズリンクの多地点テレビ会議などだが、VP1000 のテレビ電話とブラウザを連携させ、新たなアプリケーションを開発できないかと検討している。

昨年 11 月 VP1000 をリリースしてから、主にコンシューマー向けにプロモーションをしてきたところ、この VP1000 を使ったシステムインテグレーションができないかという問い合わせが SI 企業から多数あり、法人向けの要望が出てきている。

それらの要望に対して、NTT 東日本としては5つのポイントで対応を検討している。(1)ウェブ画面とテレビ電話の連携、たとえば、ドンキホーテの占い師:画面をタッチすると希望の占い師とテレビ電話で接続されるなど、(2)外部機器との接続。遠隔診断などドライバーソフトの開発、(3)ActiveX に対応することによるアプリケーション機能の搭載、

(4)社内 LAN への対応(ローカル SIP、IP-GW)、VP1000 対応の IP-PBX ビジネスフォンを活用など、(5)テレビ会議として使えないか、あるいは多地点でできないのかという要望があり、大規模多地点会議ではサーバーを活用するのはいいが、小規模では別途方法を考える必要があると見る。現行では、日立ハイブリットネットワークスの NetCS 会議サーバーに対応している。

フレッツフォンを使ったシステムインテグレーションを行う場合、NTT 東日本と SI 企業との技術開示に関わる締結を考えている。まずは、守秘義務契約から入り、技術情報の提供、必要技術の検討、技術開示契約の締結、開発、そしてエンドユーザーへの提供という流れを現在検討しているが、詳細については、4月上旬を目途に案内する予定。開示する情報は、ActiveX、API 情報、SDK、SIP インターフェイス仕様書の予定。

**講演4:ウイルアライアンス  
エグゼクティブ プロデューサー夏目光彦氏**

夏目氏からは、VP1000 を使った導入事例や応用事例などについての説明があり、介護関係、企業の面接、個別学習、遠隔講演、遠隔授業、などのさまざまなアプリケーションにおいて VP1000 が活用できる場があると紹介。

神奈川県の子育て支援サービスでは、離れた老人同士のコミュニケーションのツールとして、VP1000 が利用されている。

人材派遣会社では、会議など社内的な利用以外にも、東京と大阪を結んで派遣社員登録者との 1 対 1 の面談や、その派遣社員登録者向けの遠隔セミナーを実施したりしている。VP1000 により東京から大阪の登録者向けのセミナーも行えるようになった。会場内で流れたビデオクリップに登場した人材派遣会社の担当者によると、「今までの社内での会議は、電話と PC 画面を共有してやっていたが、今後フレッツフォンを使って会議を行う考え。表情などがわかり、コミュニケーションとしては十分役割を果たせるのではないかと思います。」とフレッツフオンの有効性をコメントしていた。その派遣会社がフレッツフォンを導入した理由だが、遠隔地への往來を減らすことにより経費の削減を図ること、そして新規事業あるいは新サービスにフレッツフォンを使いたいという考えがある。

遠隔監視的な使い方、フレッツフォンを定点観測カメラとして利用する方法もある。

イベント的な利用では、ジャイアンツ宮崎キャンプ 2005でも利用され、日本各地 4 箇所をフレッツフォンで結び「ジャイアンツプレーヤーズコール」を行い、各地からジャイアンツ選手への野球にまつわる質問など子供達から行われた。また、小学校とジャイアンツ選手を遠隔で結び、講演とファンと選手との交流にフレッツフォンが活用された。

また、夏目氏により、会場と4カ所を多地点で結んだフレッツフォンによるデモも行われ、フレッツフォンの映像、音声などのクオリティ、そして多画面分割などの機能が披露された。この多地点接続は、デジタル・メディア・ラボ(東京都文京区)が開発した簡易会議システム(開発コードネームWD-1)(当日は参考出展)により行われた。

### 展示コーナー(セミナー会場内)

会場内には、小展示コーナーも設置され、フレッツフォンと組み合わせたソリューションが各種、参考出展として展示された。



まずは、NTT 東日本の展示では、同社で販売している VoIP ビジネスフ

オン「Netcommunity SYSTEM X7000」の内線としてフレッツフォンを使えるというもの(上写真:参考出展)で、現在はフレッツフォンであっても VoIP の音声のみだが、今後テレビ電話も行える機能を実装するという。

次に、UC-Media(東京都三鷹市)の MCU UCM-3000 を使って、フレッツフォン 5 台とタンバーク社の TANDBERG880 を 1 台、合計 6 台を H.323 多地点接続したデモ。フレッツフォンから H.323 端末への IP アドレス及びゲートキーパーによる通信が行える。多地点接続装置専門メーカーの UC-Media 社(東京都三鷹市)と、テレビ会議システム等の販売を行うブイテック(東京都三鷹市、UC-Media 社の販売代理店)は、NTT 東日本と協力してフレッツフォンと UC-Media の MCU、そして H.323 テレビ会議



端末(写真左:参考出展)などを組み合わせたソリューションを提供していくという。ブイテックに

よると、フレッツフォンを含めたテレビ会議案件が出てきているという。

東芝(東京都港区)は、フレッツフォンを内線として使える



「SG-25MG」(写真左中央:参考出展)を展示。企業内に設置されたフレッツフォンを内線として使

え、共有の電話帳やグループ毎の出退勤の情報が参照できる。その人の氏名が表示されていれば、そのままフレッツフォンでその人の名前を

選ぶことによりコールすることができる。

日立ハイブリットネットワークス(神奈川県



横浜市)は、フレッツフォンに対応した、PC テレビ会議システム NetCS シリーズを多地点接続サーバーとして使ったソリューションを展示。フレッツフォンと NetCS クライアント混合の会議も簡単に行える(写真上:参考出展)。NetCS クライアントと同じようにフレッツフォンから会議室にログインして多地点会議に参加できる。最大 16 台の 4 画面分割多地点接続が可



能。

また、会場でのフレッツフォンの多地点接続デモのサー



バーとして  
使用された、  
最大5拠点  
の多地点  
接続を可能  
とする簡易  
会議システ

ム(開発コードネーム WD-1:写真上、参考出展)は、デジタル・メディア・ラボ(東京都文京区)が開発、今年6月に販売予定。特長としては、(1)一般的なテレビリモコンで操作が可能、(2)最大5地点での接続。映像・音声ミキシングにより1対1の対向接続のため、1対1接続と同様な品質が可能、(3)メーカーを問わず映像入出力機能のある既存のテレビ電話との接続も基本的に可能、(4)外部入力を2つもっているため、カメラ入力だけでなく PC や DVD 等の入力など拡張性があり、さらにそれら入力の切り替えも簡単となっている。(セミナーレポート終わり)

## イベント情報

### ■TANDBERG セミナー

日程: 4月8日(金)15:00~16:30

場所:TANDBERG 日本支社 4階会議室

中央区日本橋人形町 3-7-6 FSK 人形町ビル

セミナー内容:2月7日に発表した Firewall 越えを可能にする Expressway ソリューションおよびビジネスパーソナル向けの新製品を含む、MXP 製品のデモ。

詳細:

<http://www.tandbergjapan.com/services/training.html>

### ■IP & Wireless Forum 2005

開催日時:2004年4月13(水)~14(木)10:30~17:30

開催場所:東京ビッグサイト 西3ホール

主催:株式会社リックテレコム

共催:E.J.クラウド&アソシエート社

詳細:<http://www.ric.co.jp/expo/ip2005/>

### >F1 4/14 10:55-12:00 パネルディスカッション

ビジュアルコミュニケーション導入決断の理由と  
活用効果(事前予約要)

~導入企業に見る「コスト削減」と「スピード経営」~  
パネラー:

日本大学商学部 教授 工学博士

ビジュアルコミュニケーション推進協議会・会長

児玉 充氏

ビジュアルコミュニケーション推進協議会・事務局長

藤原 祥隆氏

株式会社大塚商会 総務部 兼 環境管理室

課長 妹尾 徹氏

他、導入ユーザー企業:1社

<http://www.ric.co.jp/expo/ip2005/index4.html>

### >無料個別相談

ビジュアルコミュニケーションシステム活用

4/14 13:00~17:00

相談員:日本大学商学部 教授 工学博士

ビジュアルコミュニケーション協議会・会長 児玉 充氏

## BCS Tokyo 2005 情報

BCS Tokyo 2005 の出展企業は、4月1日現在18社から出展のご意向を確認しております。

BCS事務局を代表いたしまして、皆様のご協力に深謝申し上げます。有り難うございます。

テレビ会議、ウェブ会議、データ会議、電話会議、多地点サービス、周辺装置など、カテゴリー的にはほぼまんべんなくご出展していただけるような状況です。

出展募集の締め切りは、3月31日でしたが、各社様の社内のご都合等があるため、4月中旬頃までお待ち致しておりますが、小間数が20小間を越えておりますので、会場のスペースから小間に空きがなくなることも予想されます。早めのご検討及びお申込をお願い申し上げます。

ご検討重ねて御礼申し上げます。

準備関係では、後援団体企業に、株式会社富士カメラ総研がきまりまして7団体企業のご協力をいただくことになりました。ご協力深く御礼申し上げます。

来場者に配布する「いろは小冊子」は、A5サイズのフルカラーの光沢紙を使ったもので、来場者以外にも各出展社に50-100部は無償でお渡しする予定です。

また、B5版サイズのカラー刷りの「出展企業ガイドブック」も合わせて制作し、来場者の方への配布を予定しております。

詳細は別途出展企業様にはご連絡いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

BCS事務局 代表 橋本啓介

## 編集後記

遅れながら次号でウェブ会議、電話会議サービス系などの第四四半期の業績発表をレポート致します。

今回発行が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

また昨年11月18日に開催したdte-forum 勉強・懇親会第二回を今月終わり頃に予定しております。別途ご案内させていただければと考えております。ご参加いただければ幸甚です。

CNAレポートジャパン

編集長 橋本 啓介 [k@cna.jp](mailto:k@cna.jp)(CNAレポートジャパン

Vol 7. No.6 2005年3月31日号(終わり)次号 Vol 7. No.

7は、2005年4月15日の発行を予定しております。